

「おいしさ」と「みばえ」を兼ねそなえた 日本一の佐渡米づくりポイント

令和2年5月
JA佐渡営農事業部

～初期生育の確保で品質と収量も確保しよう！！～

初期生育は最終的に穂数（茎数）や登熟日数に関係し、品質と収量に影響してきます。

①田植え日は晴れた好天に行いましょう！

悪条件の天候（風雨等）や苗（徒長・老化苗等）で田植を行うと、その後の天候が良くてもなかなか生育が回復しません。

★初期生育を確保がポイント

- 田植えは苗の生育状況(適正苗)に合わせ好天日におこないましょう！！
活着限界温度…12～13℃(日平均気温)※徒長苗・老化苗…14～15℃
- 田植えから活着時、低温・強風時は保温的な水管理を徹底しましょう！！



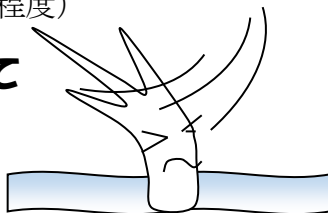
②田植え後10日間と、悪天候時は5cm程度のやや深水管理

田植え後から苗が根を張る（活着する）までの10日間は、悪天候等になると植え傷みが発生しやすい期間です。水をやや深めにし、苗を保護しましょう！

○水深別のイメージ(低温・強風時)

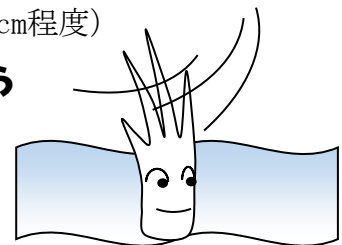
- ・水深浅め（3cm程度）

風も強いし寒くて
弱っちゃう…



- ・水深やや深め（5cm程度）

水が風と寒さから
守ってくれる！



時期	水深(cm)	効果	備考
田植え～10日間程度 (または低温・強風時)	やや深水 5cm程度	低温・風による植え傷みを 防止し、活着を良くする	水温を保てるよう漏水防止 する
田植え後 10日以降	浅水 3cm程度	水温・地温を上昇させ 分けつを促進させる	ワキが多い場合は1～2日 落水し、水の更新をする

※ 補植苗は「いもち病」の発生源となるため、補植終了後は速やかに除去しましょう。

③除草剤使用の際の注意ポイント

除草剤を使用する際は以下の点に注意してください。

- ・風が強い日などは除草剤を施用しない！
⇒根が土壌から露出し、葉害が発生する可能性があるため
- ・除草剤散布後は3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水・かけ流しは行なわない！
⇒粒剤は水深を3～5cmを確保し、ジャンボ剤・フロアブル剤・豆つぶ剤については水深5～6cmの状態を保つ